

委託業務成績採点表

[設計業務]

[業務番号] 業務名 受託者		委託期間				[完了年月日] 完了検査年月日					
業務内容		業務担当員			検査員 (部分・中間検査等)		検査員 (完了検査)				
検査番号		主任担当員氏名		検査員③氏名		氏名		検査員調整後 評定点 ⑦			
評価項目		担当員氏名		検査員④氏名		氏名		業務評定			
		業務担当員の 合計評定点①	調整後の 評定点②	検査員の 評定点③	検査員の 評定点④	(③と④の平均) ×0.2 ⑤	検査員の 評定点⑥	⑦=⑥×0.4 or ⑦=⑤+⑥ ×0.2	評定点 ⑧	加重平均点の算出 重み ⑨	⑩= ⑧×⑨ / 満点
専門技術力	提案力・改善力	①=	②=①×1.0						⑧=②	2	/ 200
	業務執行技術力	①=	②=①×0.6	③=	④=	⑤=	⑥=	⑦=	⑧=②+⑦	2	/ 200
	施工時への配慮	①=	②=①×1.0						⑧=②	1	/ 100
	コスト把握能力	①=	②=①×1.0						⑧=②	1	/ 100
管理技術力	工程管理能力	①=	②=①×1.0						⑧=②	2	/ 200
	品質管理能力	①=	②=①×1.0						⑧=②	2	/ 200
	迅速性・弾力性・調整能力	①=	②=①×1.0						⑧=②	1	/ 100
コミュニケーション力	説明力・プレゼンテーション力・協調性	①=	②=①×1.0						⑧=②	1	/ 100
取組姿勢	責任感・積極性・倫理観	①=	②=①×1.0						⑧=②	1	/ 100
成果品の品質		①=	②=①×0.6	③=	④=	⑤=	⑥=	⑦=	⑧=②+⑦	7	/ 700
総合評定点の算定		⑪=⑧の評定点の加重平均点 (= Σ⑩/20)							⑪=	20	Σ⑩ / 2000
		⑫業務執行に係る過失に伴う減点							⑫=		
		⑬事故等による減点 (業務遂行段階を対象とする。)							⑬=		(該当する場合のみ入力する)
		⑭総合評定点=⑪+⑫+⑬									
所見	[業務担当員]	技術者評定点		検査員 [部分・中間検査等]			検査員 [完了検査]				
		主任	照査								

- ※ 1 各項目ごとの評定点は、評価項目別運用表により評定点を記入すること。
 2 検査員の網掛け部分に該当する項目は、評定対象外であること。
 3 総合評定点は次により算出し、業務完了時に記入すること。
 a. 部分・中間検査等がなかった場合；総合評定点=業務担当員評定点×0.6+検査員(完了検査)×0.4
 b. 部分・中間検査等があった場合；総合評定点=業務担当員評定点×0.6+検査員(部分・中間検査等)×0.2+検査員(完了検査)×0.2
 ※ 部分・中間検査等が2回以上あった場合は、その平均値を検査員(部分・中間検査等)の評定点とする。
 4 評定点及び総合評定点の算出に当たっては、小数第1位を四捨五入すること。
 5 事故等による減点基準は、文書注意-5点、指名停止1ヶ月まで-10点、指名停止が1ヶ月を超える-15点とする。
 6 「所見」欄は、必要に応じ、評定者ごとに記入すること。

評価項目	評価の視点	配点	得点率				得点	得点	得点	評価細目	業務番号
			優	標準	劣						
			1.0	0.8	0.6	0.4					
提案力、改善力	業務着手段階における業務特性等の考慮	20	①	②	③				・当該業務の仕様や発注者からの指示等を満たす提案がなされた。 ・当該業務の特性を考慮しつつ、新たな、あるいは高度な調査・解析・設計等の手法・技術に関する提案がなされた。		
	業務遂行段階における提案	40	①	②	③				・業務遂行段階で新たな視点から提案がなされた。 ・関連する多面的な視点から検討された、あるいは高度な技術レベルに基づく提案がなされた。		
	業務遂行上必要となる課題の提案	20	①	②	③				・当該業務で不足する課題が抽出された。 ・検討課題と共に今後実施すべき検討事項・方針等が提案された。		
	業務内容等改善の提案	20	①	②	③				・業務の作業効率を向上させる提案が、自主的になされた。 ・業務の内容・精度を向上させる提案が、自主的になされた。		
	小計	100	①								
業務執行技術力	目的と内容の理解	20	①	②	③				・業務計画書に必要な事項が記載されていた。 ・当該業務の目的、内容が理解されていた。 ・業務計画書の実施方法等に、業務内容を具体化する記述があった。 ・特記仕様書等に示された当該業務と関連する他の業務、事業が理解されていた。		
	必要情報の把握	20	①	②	③				・業務着手時点において、適切に資料等が整備された。 ・業務実施の各段階で、入手した資料が理解・活用されていた。 ・業務遂行段階で、新たに必要とされた情報収集の努力がなされていた。 ・業務遂行段階で、当該業務に有意な情報が自主的に提供された。		
	検討項目、検討手法	20 50	① ② ③						・検討項目は、特記仕様書等の設計図書項目を満足していた。 ・採用された検討手法の技術的内容は、業務の目的に適合していた。 ・業務目的に照らし必要な検討項目が不足無く設定され、検討項目間の整合も図られていた。 ・提案された検討手法は、従来技術を応用・統合化あるいは先進技術を活用するなど、難易度の高いものであった。		
	打合せ資料の内容	20	①	②	③				・打ち合わせ資料に大きなミスがなかった。 ・打ち合わせ資料に、業務を進めるにあたっての課題等が適切に盛りこまれていた。		
	十分な技術力	20 50	① ② ③						・業務に必要な技術基準、マニュアル、共通仕様書等が十分に理解されていた。 ・特記仕様書等に示された当該業務固有の条件に対応可能な十分な技術力を有していた。 ・業務遂行段階において発注者から新たに指示された事項について十分満足できる解決が図られていた。 ・新たな、あるいは高度な調査・解析・設計等の手法・技術に十分対応できる能力を有していた。		
	小計	100	①								
施工時への配慮 (設計時評価)	イ・概略設計、予備設計の場合	60	①	②	③				・設計、図面作成において留意すべき、施工に関する一般的な知識を有していた。 ・施工方法の検討において一般的に留意すべき点を理解していた。 ・施工方法の内容及び長所・短所に関する一般的な知識を有していた。 ・施工方法が周辺環境におよぼす一般的な影響を理解していた。		
	ロ・詳細設計の場合	40	①	②	③				・当該地点における施工上の制約条件や問題点を把握していた。 ・当該地域の環境特性を把握していた。 ・担当者の施工に係わる要求事項を把握していた。 ・契約図書及び発注者に指示された施工に係わる関係機関等の情報を把握した。		
	小計	100	①								
コスト把握能力 (設計業務を対象に評定する。イ、ロのいずれかを選択する。)	イ・概略設計、予備設計の場合	40	①	②	③				・設計、図面作成において留意すべき、施工に関する一般的な知識を有していた。 ・施工方法の検討において一般的に留意すべき点を理解していた。 ・施工方法の内容及び長所・短所に関する一般的な知識を有していた。 ・施工方法が周辺環境におよぼす一般的な影響を理解していた。		
	ロ・詳細設計の場合	30	①	②	③				・当該地点における施工上の制約条件や問題点を把握していた。 ・当該地域の環境特性を把握していた。 ・担当者の施工に係わる要求事項を把握していた。 ・契約図書及び発注者に指示された施工に係わる関係機関等の情報を把握した。		
	小計	100	①								
コスト把握能力 (設計業務を対象に評定する。)	コスト把握能力	100	①	②	③				・工事費に関するコスト把握能力を有していた。 ・現地条件などの固有条件がコストに及ぼす影響を理解していた。 ・コスト削減に係わる提案があった。 ・ライフサイクルコストや新技術・新工法等の総合的なコストを念頭にいたコスト削減に係わる提案があった。		
	小計	100	①								

専門技術力
プロセス評価

(別紙 2)

評価項目別運用表 (3/3)
(設計業務)

評価項目	評価の視点	配点	得点率					担当員 ①	主任担当員 ②	完了検査員 ③	評価細目	業務番号
			1.0	0.8	0.6	0.4	0.2					
結果評価 成果品の品質	目的の達成度	40	評価項目数=0⇒「0.2」 # =1⇒「0.4」、# =2⇒「0.6」 # =3⇒「0.8」、# =4⇒「1.0」								該当する場合は黄色枠に1を入れる。 ・設計図書に提示された項目が、漏れなく実施された。 ・業務遂行段階での指示事項が、漏れなく実施された。 ・業務成果は、業務目的に照らし満足できる内容のものであった。 ・高度な技術レベル、多岐にわたる検討項目など、難易度の高い業務に対し必要な業務成果が得られた。 ・設計図書にある検討項目、業務遂行段階での指示事項を、漏れなく取りまとめている。 ・理解しづらい文章表現等は、ほとんど認められない。 ・簡潔で理解しやすい表現になっており、記載方法に創意工夫がみられ読みやすい。 ・設計図書にある事項、業務遂行段階での指示事項を関連づけ、重要な点が理解しやすく取りまとめられている。 ・成果品の品質に大きな影響を及ぼすような、重大なミスは無かった。 ・誤字・脱字、表記・計算ミスがわずかに認められたが、簡易に修正できる軽微なものであった若しくはミスが無かった。 ・修正が必要なミスは無かった。 ・ミスは無く、必要書類等も完備されていた。	
	的確なとりまとめ	30	評価項目数=0⇒「0.2」 # =1⇒「0.4」、# =2⇒「0.6」 # =3⇒「0.8」、# =4⇒「1.0」									
	ミスの有無	30	評価項目数=0⇒「0.2」 # =1⇒「0.4」、# =2⇒「0.6」 # =3⇒「0.8」、# =4⇒「1.0」									
	小計	100	①									

業務執行に係る過失に伴う減点

業務執行に係る過失に伴う減点	業務執行上の過失	評価項目数1つ毎に3点減点							・業務執行上、指摘又は指導等を行ったが、改善されなかった。 ・関係者から苦情が寄せられる等、問題が認められた。又は、問題発生時の情報連絡等、対応が適切に行われなかった。 ・業務処理のミスにより大きな手戻りが生じた。 ・業務実施体制に問題があった。 ・その他 (理由)	
	小計	⑫								
	守秘性に係る過失	評価項目に1つでも7.7.7があれば3点減点								・業務に関する情報漏洩があり、受託者の責任によるものと発注者が判断した。 ・その他 (理由)
	小計	⑫								
合計										